

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4090800238		
法人名	医療法人 輝栄会		
事業所名	グループホーム トリニテ松崎		
所在地	福岡県福岡市東区松崎2丁目7-21 (電話) 092 - 663 - 0508		
自己評価作成日	令和 6 年 12 月 12 日	評価結果確定日	令和 7 年 3 月 17 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

施設前には公園があり、日和の良い日には散歩に出かけております。施設前の道路は子ども達の通学路でもあり、往来の際に挨拶をしたり、お話しをしたりと交流することもあります。また、ＪＲ千早駅から車で5分程の位置にあり、利便性に富んでいます。母体が医療法人ということもあり、医療面でのサポートも充実しています。緊急時の対応も万全です。看取りの体勢構築にも力を入れています。更に小規模多機能ホームやサービス付き高齢者住宅併設の複合型施設ということもあり、サービスの変更などご利用者様の状態に合わせ柔軟に対応できることもご本人様やご家族様の安心に繋がっているようです。また、去年より外国人（ベトナム）技能実習生をうけいれており、職員は指導するだけではなく、共に成長していけるように励んでいます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	令和 7 年 2 月 4 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

法人の病院が近くにあり、24時間対応が可能である。利用者の状況は、医療機関と情報共有され、利用者や家族の安心度も高い。また、ＪＲの駅から車で5分と交通の利便性がよく、消防署や消防団も近くにある。事業所のすぐ前には公園があり、子どもや地域住民と挨拶を交わすなど、交流している。事業所の玄関は格子戸となっており、落ち着いた木の質感がする温かみのあるデザインとなっている。完全バリアフリーで、通路も広く利用者の安全にも配慮されている。家庭的で落ち着いた雰囲気があり、利用者は家庭的な雰囲気の中で心地よく生活することができている。

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅰ 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の掲示を行い、朝礼時に唱和を実践している。理念には三位一体で協働と貢献を高めていくことが込められており、意識しながら実践している。	毎朝朝礼で理念の唱和をしている。地域密着型サービスの視点をもち、職員全員で確認している。管理者は職員とともに介護を実践している。理念の具体的な活かし方を現場で点検し教えている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2ヶ月毎の運営推進会議開催、地域行事への（清掃活動等）への参加。夏祭りや秋のバザー＆作品展はここ3年程開催中止となっているが、今年度秋祭りを開催した。	自治会に加入し、清掃活動や地域行事に参加している。秋祭りにはバザーや作品展等で参加している。近隣の保育園児が事業所を訪問し、歌唱したり、絵画等を持参して一階フロアに掲示する等している。また、中学校の職場体験も受け入れており、事業所は地域の一員として積極的に交流している。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学校区における事業所間ネットワークの構築を充実させながら、「健康フェア」などへの職員の派遣や参加。「認知症カフェ」を年2回開催。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ヒヤリハットの前2ヵ月の報告を行い、事故防止への取り組みに対する意見などをいただき、今後の防止対策に生かしている。地域行事や社協行事のお知らせをいただき、協力や参加についてのすり合わせを行う。	運営推進会議は、2か月に一度開催している。介護サービスや評価への取り組み状況を報告している。参加者から利用者の好きなものを提供してほしいという意見が出され、和菓子や果物等利用者の好みに応じて提供する等、意見を運営に反映している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への参加要請は必ず行い、社協、支援センターからの出席がある。お互いの行事の紹介はじめ行事の共催や参加要請など行い、協力関係は築いている。	運営推進会議への行政職員への参加を呼び掛けている。公的扶助担当の職員が定期的に事務所に来訪しており、相談等を行っている。行政が行う認知症の声掛け訓練の行事等に参加する等し、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が気づかない間に外に出てしまう利用者もいらっしゃいますが、人感センサー等を使用しながら自由にフロア内を歩いてもらい玄関の施錠開放を実施している。身体拘束ゼロケアの実践は出来ているし、常に心がけている。	玄関や居室は日中施錠せず、人感センサー等を使用し、利用者の安全に配慮している。権利擁護や虐待、身体拘束について研修を年2回行っており、職員は身体拘束しないケアについて、正しく理解し学んでいる。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年２回以上の研修を実施しながら、防止に努めている。職員間でも注意し合うよう研修後も虐待防止に取り組んでいます。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修への参加などを通して、学習機会を確保したり職員間でも制度についての語り合う機会を設けて制度の理解に努めている。	制度に関して、契約時にパンフレットを用いて利用者や家族に説明している。成年後見制度を利用している利用者があり、日常的に弁護士から制度に関する知識や説明をうけ、支援に結び付けている。内部研修や職員で話し合う機会を設けて理解を深めている。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設見学、申込み、契約の時々において詳しく説明し、理解いただくように努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議へのご家族参加もあり、そこでご意見等を頂いたり、直接管理者に電話でご要望を頂いたりしております。、その意見はユニット会議で職員へ伝達し情報共有して、ご家族のご要望に沿えるよう努めている。	管理者や職員は、利用者や家族の意見や要望を日頃から聴き取っており、どんなことでも安心して話せる信頼関係を築いている。出された意見は会議で話し合い、情報共有し反映させている。紫陽花園を夫婦で散策したい、家にいる猫と遊びたい等の要望にも応えている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に意見交換ができる環境づくりに努めている。ユニット会議の開催時などでも「意見を聞き、可能な限り、できることから着実に」をモットーに反映するように努めている。	管理者は毎月開催するユニット会議や介護現場で、職員と意見交換等をしている。管理者は積極的に声掛けを行い、職員が意見を言いやすいような環境づくりをしており、出された意見を検討し、より良い運営に繋げている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ユニットでの実態把握を行い、部署や経営主体執行部への具申などを行うことで、職場環境・条件整備に努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員は性別を問わず、年齢層も幅広く、資格の有無も排除の対象にはしていない。採用後においても職員の意思や能力に十分配慮したものとなっている。	職員は性別や年齢で採用から排除していない。職員の年齢層も幅広い。定年はあるが、その後は1年ごとの更新で働くことができる。希望に応じて勤務時間帯の変更や他事業所への異動が可能である。資格取得についても奨励している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	施設内の各種研修の際に人権の重要性やプライバシー保護についての啓発に努めている。また、外部研修への参加についても積極的に努めている。	一年間の研修計画が立てられており、外部研修「働く人の人権研修会」を職員全員が受講して学んでいる。内部研修も行っており、人権の重要性やプライバシー保護等について、学んでいる。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修参加の推奨と併せ、人材育成プログラムの作成構想を検討している。また外国人技能実習を行っており、人材育成に取り組んでいる。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	東区グループホーム協議会にも参加しており同業者との意見交換や勉強会が定期的に行われており、積極的に参加し、サービスの質の向上に活用している		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	計画作成担当者だけに任せるのではなく、職員一人ひとりが本人の意思を引き出し、ご利用者様の生きがいや安心につなげていっております。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様への生活状況等の報告はもちろん、信頼関係構築へのコミュニケーションを大切にし、ご家族様の満足や安心につなげるよう努力しております。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた 対応に努めている	サービス開始時は管理者と計画作成担当 者が主に生活歴や現状についてのヒヤリング を行います。そこで今必要な支援を考えて います。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを 共にする者同士の関係を築いている	「出来ない事を問題にするのではなく、そ の方が出来るような工夫をしよう！」との スタッフ共通意思のもと、少しでも自立し た生活、役割や生きがいをもった暮らしが できる環境づくりを一緒に考えています。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家 族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築い ている	利用者様ごとに担当職員を決め、その職員 より御家族へ一筆箋を手書きで作成し利用 者様のご様子を毎月報告している。ご家族 様にも管理者以外の職員の名前を覚えても らえ、親しみをもって頂けるよう努めてい る		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係 が途切れないよう、支援に努めている	個別レクを通して馴染みの場所、人との関 係が途切れることがないように支援しており ます。ご家族の面会機会を設けたり、自宅 への帰宅機会を企画実施しています。	職員は利用者の生活歴と馴染みの人と場所 の情報を共有している。散歩を日課として おり、毎日顔を合わせる地域住民とは、笑 顔で挨拶したり、言葉を交わすなど、顔馴 染みになっている。華道のお弟子さんの訪 問があったり、行きつけの甘味の店に職員 と一緒に訪問するなど、これまでの関係が 途切れないよう支援している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用 者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションには必ず職員も参加し、声 掛け、気配り、目配りをし、皆様が参加し 孤立することないようにしております。レ クを通しての共同作業やお世話をしたりさ れたりの関係を大事にしています。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を 大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォロー し、相談や支援に努めている	サービス終了は、ほとんどが死亡退去で す。そこで、入院加療となられた場合や施 設替え等が生じた場合には面会やご家族と の連絡などの配慮していきます。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の意思を聞き出すことは難しい場合も多々ありますが、ご家族様からの聞き取りや日常の動作、生活歴などにも注意を払い、本人様に寄り添う努力をしています。	日々の表情の違いを察し、質問や希望を聞いたりしている。「家族に会いたい」という思いを聞き、家族に伝え面会に来てもらう等、利用者の気持ちに寄り添う支援をしている。意思疎通の困難な利用者には、家族からの情報を得たり、日ごろの様子から思いを汲み取ったりしている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアプラン作成時のアセスメントを重要視しており、スタッフが関わること、本人家族への寄り添いの気持ちを大切に傾聴に徹することで今後の支援につながるように努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル測定や水分量、排泄の状況は詳細に記録しており、その都度看護師にも報告助言してもらい、健康管理をしています。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の気付きを大切に、ケアプランに反映させております。ご本人はもちろん、ご家族様にも計画段階で必ず意見を聞き、反映させる努力をしております。	介護計画作成者を中心に管理者や担当職員、看護師等で3か月ごとに介護計画を見直ししている。家族にも出席してもらい、思いや意見を聞いて計画作成に活かしている。事前に医師からも意見を聞いている。作成した介護計画案は、ユニット会議で意見や情報を共有し、作成後は、職員に周知している。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づく記録をするように職員には意識付けしている。またご利用者様が発した言葉や態度を正確に記録するなど、客観的な記録を重視し、職員間で情報共有しようとしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様やご利用者様のご要望には出来る限り対応しようと日々頑張っている。ご家族のご希望で現在、看取り介護もおこなっており、医療行為も要するため、訪看を利用しながら支援している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	清掃活動に参加し交流を図っている。また祭りややばザー等開催予定である。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ病院がある方に関しては受診のサポートをしている。他の方は千早クリニック 往診にて日常のフォローをしている。	入所前のかかりつけ医を継続するか、提携の病院に変更するかを選ぶことができる。提携医は2週間に1回往診があり、訪問歯科診療も行っている。外部受診は家族の協力を得て受診をしている。家族の都合がつかない場合は、職員が受診支援をしている。その際の医療情報は、家族に報告し情報共有している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は気づきがあれば看護師に相談し、必要と判断されれば受診の介助もしている。看護師の不在時は他の部署の看護師に応援を依頼したり、電話連絡にて状態を報告している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	母体が病院ということもあり、入退時の情報交換はスムーズに行えている。また入院中は病院の地域連携室とこまめに連絡を取り情報交換を行い、早期退院に努めている。ご家族様にも状況を報告するなどしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、ご家族の希望で看取り介護を行っている。ご利用者様の状態が変化するたび、ご家族に報告し、担当医からの説明の場を設け、事業所で出来ることをその都度説明し意思確認を行い、訪問診療、訪問看護、事業所で協力しあい支援している。	重度化や終末期に向けた方針について、契約時や状態の変化があった時、また医師が看取りの状態だと判断したときに話をしている。その後も変化がある度に情報を共有し、医師や家族を含め話をしている。看取りの場合は、家族が宿泊できる準備をしており、家族と一緒に看取ったこともある。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命処置の研修を行ったほか、緊急連絡網は職員の異動などがあった際にはすぐに見直し、その際に職員に緊急時対応・応援要請などについて職員間で情報共有している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、施設全体で防災訓練を行い、その際にはご利用者様にも実際に避難して頂き、訓練の為に訓練にならないようにしている。	年2回、日中と夜間想定で避難訓練を行っている。地域住民には事前に声をかけており、消防団の参加がある。水害訓練には、砂のうを積む等の訓練を行った。また、非常用の備蓄品として、カセットコンロや水、食料品を3階の倉庫に保管している。2階の事業所内には、米を保管している。	
【Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけないような声掛け・介助に努めている。また職員間でも利用者対応に関して指摘し合える職場環境である。	内部研修を行い、利用者のプライバシー保護に関して職員の意識向上を図っている。プライバシーを損ねない言葉かけや対応を徹底し、管理者だけでなく職員同士でもお互いに注意しあえる関係性を構築し実践している。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様が選択・決定できるような声掛けをするよう、職員皆心がけている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の一日の流れはありますが、ご利用者様の体調や希望に合わせて一日を組み立てるように心がけている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節感を大切にし、同じような格好をするのではなく、色々な洋服を着るよう支援している。毎月、訪問理美容もこられ希望される方はカットやカラーリングが出来るよう支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事レクを毎月行っている。季節を感じてもらえるメニューを考えたり、ご利用者様の希望を聞いて食べたい物を作るようにしている。	食事は季節感を味わえ、楽しめるように工夫している。お正月にはおせちや節分に海苔巻き等、特別メニューを出して、楽しみながら食事ができるようにしている。ちらし寿司やシチューなど、希望のものをメニューに取り入れている。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、食事量、水分量の記録を行い職員で共有している。水分摂取が難しい方には好みの飲み物（ココアやカルピス）を作って提供したり、ご飯を必ず残す方にはふりかけをかけたり、おにぎりして提供したりしている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で磨いて頂き、その後で職員が仕上げ磨きと舌磨きを行っている。誤嚥が心配な方は吸引機を使った口腔ケアを行っている。また別府歯科往診も継続している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で排泄リズムをつかみ本人様への声掛けを行っている。介助で少しでも立位が可能な利用者様にはトイレでの排泄を行っている。	利用者一人ひとりの排泄リズムを把握し、声掛けや誘導を行っている。トイレでの排泄を望む介護度が重い利用者にも、2名で介助を行う対応をしている。排泄量を見ながら、パッドを変える等、見直しを行っている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の提供をこまめにしている。また歩行訓練や体操など身体を動かし、自然な排便を促している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった入浴の支援をしている	拒否があれば無理強いせず、タイミングを見て再度声掛けしたり、別日や清拭に変更したり、その方に応じた入浴介助を常に考え、実践している。	入浴の準備は毎日行っている。週2回の入浴を基本としており、入浴を希望しない利用者には無理強いせず、時間を変更したり、翌日に声掛けする等、臨機応変に対応している。入浴を楽しめるように、入浴剤を使ったり、BGMを流したりする等している。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様の夜間の睡眠状態や日中の状態を確認して適宜午睡を取り入れている。就寝時間についてもある程度のスケジュールはあるが、ご本人様の意思を尊重し、ご本人様が寝たい時に寝、起きたい時に起きるように職員は配慮している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報は個人ファイルで管理しており、適宜確認できるようにしている。また処方薬変更時には業務日報と口頭の申し送りにて伝達し、職員ひとりひとりがきちんと把握するよう努めている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ぬりえやドリルなど、ご本人様の得意な事に沿ったレクの提供を行い、取り組んでいる。飽きのこないようにレク素材も毎回検討し準備している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節にもよるが、晴れた日にはなるべく戸外に出て、外気浴をするようにしている。また季節に合わせた外出レクも企画している。	体調や希望に応じて散歩や買い物、ドライブを行っている。家族に声掛けを行い、車いすで一緒に外出する等している。利用者の希望や季節に応じてドライブを行っている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日用品などの買い物の支援を行っている。個別レクで買い物好きな方に買い物レクを行い、お菓子等の買い物に同行し支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話や手紙を書く援助も行っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花をご利用者様と一緒に生け、廊下に飾っている。また大きく書いた壁掛けカレンダーを設置したり、空調には頼らず、日中は定期的な換気も兼ねて窓を開け、外気を感じていただいております。カーテンも開け、外光も取り入れて昼夜の区別も図っている。	居間の壁面には、利用者の作った季節が感じられる作品や写真が飾られ、音楽も流しており、居心地のよい空間となっている。日中は、換気も兼ねて、できるだけ窓を開け外気を取り入れている。昼夜の区別がつくよう、カーテンを開け外光を取り入れている。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方同士でお話しが出来るよう座る位置を考慮している。またトラブルになりそうな場合は職員がすぐに間に入り、良好な関係の維持に努めている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様の状態に合わせて職員の介助（特に体交や移乗）の利便性を考えベッドの配置などはレイアウトはするが、それを除いてはご本人様ご家族様にお任せし、快適で居心地よいものにしてもらっている。	使い慣れた家具や馴染みのあるものは居室内に収まる範囲で持ち込み可能となっている。馴染みのあるものが傍にあることで、安心して落ち着いた気持ちで過ごすことが出来る。テレビや冷蔵庫を持ち込んでいる利用者もあり、それぞれが居心地よく過ごしている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室ドアに大きく名前を書いたり、食卓に目印をつけたりするなど、その方々に合わせた「わかる」工夫は常に試行錯誤している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)		①ほぼ全ての利用者の
			○	②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
			○	③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		①大いに増えている
			○	②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		①ほぼ全ての職員が
			○	②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅰ 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の掲示を行い、朝礼時に唱和を実践している。理念には三位一体で協働と貢献を高めていくことが込められており、意識しながら実践している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2ヶ月毎の運営推進会議開催、地域行事への（清掃活動等）への参加。町内行事（秋祭りなど）にも参加し積極的に交流していた。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学校区における事業所間ネットワークの構築を充実させながら、「認知症声掛け訓練」などへの職員の派遣や参加。「認知症カフェ」を年2回開催。「RUN伴」毎年積極的に参加。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ヒヤリハットの前2ヵ月の報告を行い、事故防止への取り組みに対する意見などをいただき、今後の防止対策に生かしている。地域行事や社協行事のお知らせをいただき、協力や参加についてのすり合わせを行う。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への参加要請は必ず行い、社協、支援センターからの出席がある。お互いの行事の紹介はじめ行事の共催や参加要請など行い、協力関係は築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が気づかない間に外に出てしまう利用者もいらっしゃいますが、人感センサー等を使用しながら自由にフロア内を歩いてもらい玄関の施錠開放を実施している。身体拘束ゼロケアの実践は出来ており、常に心がけている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年２回以上の研修を実施しながら、防止に努めている。職員間でも注意し合うよう研修後も虐待防止に取り組んでいます。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修への参加などを通して、学習機会を確保したり職員間でも制度についての語り合う機会を設けて制度の理解に努めている。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設見学、申込み、契約時において詳しく説明し、理解いただくように努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議へのご家族参加もあり、そこでご意見等を頂いたり、直接管理者に電話でご要望を頂いたりしております。、その意見はユニット会議で職員へ伝達し情報共有して、ご家族のご要望に沿えるよう努めている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に意見交換ができる環境づくりに努めている。ユニット会議の開催時などでも「全員の意見を聞き、可能な限り、できることから着実に」をモットーに反映するように努めている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ユニットでの実態把握を行い、部署や经营主体執行部への具申などを行うことで、職場環境・条件整備に努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員は性別を問わず、年齢層も幅広く、資格の有無も排除の対象にはしていない。採用後においても職員の意思や能力に十分配慮したものとなっている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	施設内の各種研修の際に人権の重要性やプライバシー保護についての啓発に努めている。また、外部研修への参加についても積極的に勧めている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修参加の推奨と併せ、人材育成プログラムの作成構想を検討している。また外国人技能実習を行っており、人材育成に取り組んでいる。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	東区グループホーム情報交換会にも世話人として参加。同業者との意見交換や勉強会が定期的に行われており、積極的に参加し、サービスの質の向上に活用している		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	計画作成担当者だけに任せるのではなく、職員一人ひとりが本人の意思を引き出し、ご利用者の生きがいや安心につなげていっております。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様への生活状況等の報告はもちろん、信頼関係構築へのコミュニケーションを大切にし、ご家族様の満足や安心につなげるよう努力しております。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まで必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始時は管理者と計画作成担当者が主に生活歴や現状についてのヒヤリングを行います。そこで今必要な支援を考えています。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「出来ない事を問題にするのではなく、その方が出来るような工夫をしよう！」とのスタッフ共通意思のもと、少しでも自立した生活、役割や生きがいをもった暮らしができる環境づくりを一緒に考えています。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様ごとに担当職員を決め、利用者様のご様子をご面会時や電話等でお伝えしている。ご家族様にも管理者以外の職員の名前を覚えてもらえ、親しみをもって頂けるよう努めている		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別レクを通して馴染みの場所、人との関係が途切れることがないように支援しております。また感染対策をしっかり行った上でご家族様との面会機会を設けております。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションには必ず職員も参加し、声掛け、気配り、目配りをし、皆様が参加し孤立することないようにしております。レクを通しての共同作業やお世話をしたりされたりの関係を大事にしています。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了は、ほとんどが死亡退去です。そこで、入院加療となられた場合や施設替え等が生じた場合には面会やご家族との連絡などの配慮していきます。		

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の意思を聞き出すことは難しい場合も多々ありますが、ご家族様からの聞き取りや日常の動作、生活歴などにも注意を払い、本人様に寄り添う努力をしています。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアプラン作成時のアセスメントを重要視しており、スタッフが関わること、本人家族への寄り添いの気持ちを大切にした傾聴に徹することで今後の支援につながるように努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル測定や食事と水分量、排泄の状況は詳細に記録しており、その都度NSにも報告助言してもらい、健康管理をしています。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回担当者会議を実施している。日頃の気づきを大切に、ケアプランに反映させております。ご本人はもちろん、ご家族様にも計画段階で意見を聞き、反映させる努力をしております。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づく記録をするように職員には意識付けしている。またご利用者様が発した言葉や態度を正確に記録するなど、客観的な記録を重視し、職員間で情報共有しようとしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様やご利用者様のご要望には出来る限り対応しようと日々頑張っている。ご家族のご希望で現在、看取り介護もおこなっており、医療行為も要するため、訪看を利用しながら支援している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事（秋祭りなど）に参加し交流を図っている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ病院がある方に関しては受診のサポートをしている。他の方は千早クリニック 往診にて日常のフォローをしている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は気づきがあれば看護師に相談し、必要と判断されれば受診の介助もしている。看護師の不在時は他の部署の看護師に応援を依頼したり、電話連絡にて状態を報告している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	母体が病院ということもあり、入退時の情報交換はスムーズに行えている。また入院中は病院の地域連携室とこまめに連絡を取り情報交換を行い、早期退院に努めている。ご家族様にも状況を報告するなどしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、ご家族の希望で看取り介護を行っている。ご利用者様の状態が変化する度、ご家族に報告し担当医からの説明の場を設け、事業所で出来ることをその都度説明し意思確認を行い、訪問診療、訪問看護、事業所で協力しあい支援している。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命処置の研修を行ったほか、緊急連絡網は職員の異動などがあった際はすぐに見直し、その際に職員に緊急時対応・応援要請などについて職員間で情報共有している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、施設全体で防災訓練を行い、その際にはご利用者様にも実際に避難して頂き、訓練の為に訓練にならないようにしている。運営推進会議でも水害時の避難場所として情報を発信している。		
【Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけないような声掛け・介助に努めている。また職員間でも利用者対応に関して指摘し合える職場環境である。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様が選択・決定できるような声掛けをするよう、職員皆心がけている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の一日の流れはありますが、ご利用者様の体調や希望に合わせて一日を組み立てるように心がけている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節感を大切にし、同じような格好をするのではなく、色々な洋服を着るよう支援している。毎月、訪問理美容を希望される方はカットやカラーリングが出来るよう支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事レクを定期的に行っている。季節を感じてもらえるメニューを考えている。誕生日会では事前にご利用者様の希望をとり、食べたい物を作ったり提供する様に努力している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、食事量、水分量の記録を行い職員で共有している。水分摂取が難しい方には好みの飲み物（ココアやカルピス、野菜ジュースなど）を提供したり、ご飯を必ず残す方にはふりかけをかけたりして提供している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で磨いて頂き、その後で職員が仕上げ磨きを行っている。誤嚥が心配な方は吸引機を使った口腔ケアを行っている。必要に応じて洗口液を使用して頂いている。別府歯科往診も継続している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で排泄リズムをつかみ本人様への声掛けを行っている。介助で少しでも立位が可能な利用者様にはトイレでの排泄を行っている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	オリゴ糖を使用した紅茶等を提供。日中の水分摂取する機会を増やしている。またレクリエーションや体操など身体を動かし、自然な排便を促している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	拒否があれば無理強いせず、タイミングを見て再度声掛けや別日に変更したり、その方に応じた入浴介助を常に考え、実践している。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様の夜間の睡眠状態や日中の状態を確認して適宜午睡を取り入れている。就寝時間についてもある程度のスケジュールはあるが、ご本人様の意思を尊重して就寝時間・起床時間を合わせる様に職員は配慮している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報は個人ファイルで管理しており、適宜確認できるようにしている。また処方薬変更時には業務日報と口頭の申し送りにて伝達し、職員ひとりひとりがきちんと把握するよう努めている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様の得意な事に沿ったレクの提供を行い、取り組んでいる。飽きのこないようにレク素材も毎回検討し準備している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節にもよるが、晴れた日にはなるべく戸外に出て、外気浴をするようにしている。また季節に合わせた外出レクも企画している。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日用品などの買い物の支援を行っている。個別レクで買い物好きな方に買い物レクを行い、日用品等の買い物に同行し支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話や手紙を書く援助も行っている。携帯電話（スマートフォン）を持たれているご利用者様には電話の操作方法を教えたりしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に沿った作品をご利用者様と一緒に作り、廊下等に飾っている。また大きく書いた壁掛けカレンダーを設置したり、空調には頼らず、日中は定期的な換気も兼ねて窓を開け、外気を感じていただいております。カーテンも開け、外光も取り入れて昼夜の区別も図っている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方同士でお話しが出来るよう座る位置を考慮している。またトラブルになりそうな場合は職員がすぐに間に入り、良好な関係の維持に努めている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様の状態に合わせて職員の介助（特に体交や移乗）の利便性を考えベットの配置などはレイアウトはするが、それを除いてはご本人様ご家族様にお任せし、快適で居心地よいものにしてもらっている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室ドアに大きく名前を書いたり、食卓に目印をつけたりするなど、その方々に合わせた「わかる」工夫は常に試行錯誤している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)		①ほぼ全ての利用者の
			○	②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)		①毎日ある
			○	②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいの
			○	③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある
			○	②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		①ほぼ全ての職員が
			○	②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての家族等が
			○	②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない